

酷暑の候 宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部会員に於かれましては、益々ご清福の段、大慶至極に存じ上げます。

皆様には日頃より当支部運営に際して特段のご高配を賜り、深甚なる敬意を表すと共に、倍旧のご支援を伏してお願ひ申し上げる次第です。

過ぐる七月一日は延岡総合文化センターに於いて「日本会議宮崎県北支部」記念講演が盛大に開催され、伊藤 哲 講師から「日本の皇統」について、誠に含蓄のある、そして大変興味深い講話を拝聴させて頂く機会に恵まれました。

さて同十六日夜から十七日午前に実施された「統合防災演習」で、陸自第一師団の要員が道路寸断や電話不通想定の中、被害状況や出動要請を確認する為、東京二十三区全ての庁舎に徒歩で出向いた際、その中の十一区が隊員の庁舎内立ち入りを拒絶したとの報道を聞き、我が耳を疑いました。

千代田区を初め自衛官立ち入りを拒否した十一区の表面的理由は「区民との接触を避けて欲しい・迷彩服姿等を見せたくない」との事でしたが、その背景には「外圧」があり、十二区の市民グループから「自衛隊に区の施設を使わせるな」と文書申し入れがあり、練馬区は住民監査請求まで受けたそうです。

何と、申立人は「自衛隊員に区役所の水や電気を使わせるのは違法だ」とも主張しており、当該区の自衛隊担当者は「統合防災演習実施決定後に反対運動が激しくなり、拒否派の区が増えた」との説明をしていました。

またある区の担当課長は「反対運動の凄まじさと圧力がきつかった。区民の命を守る事が第一と思うのですが・・・」とも話されていたようです。

十七年前の阪神大震災では、兵庫県知事から自衛隊に派遣要請が届くまでに四時間も掛かり、その震災発生以前の兵庫県や神戸市主催の防災訓練に自衛隊は招かれず、それが震災救援活動の大きな妨げになった事実も判明しています。

陸海空自衛隊との連携が地域防災にどれほど重要かは昨年の東日本大震災で再確認したはずであり、反対する市民グループの真意が全く理解できません。

自らも被災者であり乍ら、自衛官であるが故、迷彩服を着ているが故、家族の捜索や自宅の片付けは後回しにして、任務に没頭する隊員の心情を窺うとき、自衛官は何の為に、何を守らねばならぬのか、非常に複雑な思いに囚われます。

大凡四十年前、私が勤務した市ヶ谷第三十二連隊本管中隊の警備担当地区は南多摩の日野市でしたが、年に一度の防災訓練と民泊は中隊員の楽しみであり、特に若い営内班員は、遠い故郷のお袋の味を思い出す一夜でもありました。

こんな原風景が見知らぬ同胞の為「事に臨んでは危険を顧みず、国民の負託に応えられる」精強な自衛官を醸成する、と信ずる者は私一人なのでしょうか。猛暑の砌、熱中症等にご留意の上、呉々もご自愛専一にお過ごし下さい。

平成 二十四 年 八月 一日

宮崎県防衛協会

青年部会

宮崎支部長

小 倉 和 彦

